献呈の辞

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/36773

献呈の辞

生田省悟教授（環境思想）は、2014年（平成26年）3月をもって定年により金沢大学をご退職されることになりました。私たち、人間社会研究域法学系教員一同は、衷心よりこれを祝し、先生の長年にわたる教育研究、学内行政、そして社会貢献への情熱ある献身とご業績に対し、敬意を表します。

生田先生は、1974（昭和49年）年3月、東北大学大学院文学研究科修士課程修了後、日本大学及び県立新潟女子短期大学を経て、1981年（昭和56年）4月、金沢大学教養部に助教授として赴任されました。1996年（平成8年）に法学部に配置換えとなり、翌年教授に昇任されます。

ご専門は近代西欧の自然学・自然誌を基礎とする環境思想です。とりわけ、17世紀英文学の巨人であるサー・トマス・ブラウンを中心に研究を続けられ、ブラウンに関するご論稿や、卓越した訳書を公刊されています。また、先生ご自身がナチュラリストであり、ギルバート・ホワイトのみならず国内外を問わず幅広い領域の環境文学・環境思想に関する論文・訳書も多数公表されています。さらにこれまで、17世紀英文学会の重鎮、また文学・環境学会/ASLE-Japanの代表として、学会運営においてもご活躍されました。

学内行政では、定年までの10年間の長きにわたり要職を歴任されています。2004年（平成16年）副法学部長及び評議員に就任後、金沢大学の組織再編前後の重要な時期に法学部長そして初代法学類長を務められ、さらに2010年（平成22年）から2期にわたり、人間社会研究域長・学域長として多大な貢献をされました。今日、人間社会研究域・学域及び法学類の組織運営が円滑に行われているのは、そのご尽力の賜物です。

私事ながら法学系長就任後、人事などに関してご相談する機会が多くありましたが、対応はいつも的確かつ迅速であり、助けていただいたことが少なくありません。

生田先生は要職に就かれ非常に多忙であったため、ご自身の教育・研究面への影響は計り知れず、内心忸怩たる思いをお持ちであったと拝察します。しかし、その教育・研究リストを拝見して驚嘆するのは、教育への絶やすことのない情熱及び着実な研究業績です。昨今、教育・研究面に厳しさが求められる中で、こうした真摯な姿勢には敬服しつつ、範としなければならないと考えられます。

最後になりましたが、定年後の第二の人生では、在職中にはなし得なかったことも含めて、さまざまな分野において今後とも活躍されることをご祈念するとともに、法学系そして金沢大学を暖かいまなざしでもって見守り、叱咤激励していただきたいと念願致しております。

金沢大学人間社会研究域法学系長

名　古　道　功